



ナイチンゲールの教えを
未来の慈恵看護に引き継ぐ



東京慈恵会医科大学

〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8

附属病院(本院)

〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18 電話 03-3433-1111(大代表)

葛飾医療センター

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2 電話 03-3603-2111(大代表)

第三病院

〒201-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1 電話 03-3480-1151(大代表)

柏病院

〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1 電話 04-7164-1111(大代表)

ナース就職支援室 0120-41-7481

<http://www.jikei.ac.jp>

nurse_saiyo@jikei.ac.jp

The Jikei University

みなさんも、“慈恵”の仲間になりませんか？



本院 看護部長
高橋 則子



葛飾医療センター 看護部長
柳澤 美津代



第三病院 看護部長
奈良 京子



柏病院 看護部長
小澤 かおり

看護部の理念

建学の精神「病気を診ずして、病人を診よ」を基盤に、看護とはF.ナイチンゲールがいう「生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えること」と捉え、患者主体の看護を提供します。

私達は専門職として、より質の高い看護を目指して自己研鑽に努め、医療・看護の発展に貢献します。

**「感じる心」と「考える力」を持ち、
「人と関わる」ことが好き!!
そんな看護師を育てたい。**

人は「心」と「からだ」と「社会関係」の中で、つくりつくりされる存在。私たちは‘人’の存在をそのように捉えます。だから、その人の“生活過程”に目を向けることを大事にします。そして専門職の立場で科学的根拠に基づいて「何をどうすべきか」を考え、個々のニーズにあったケアを技（わざ）として使いこなせるようになることを目指しています。

慈恵大学行動憲章

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

病院の理念・基本方針

東京慈恵会医科大学 建学の精神

「病気を診ずして 病人を診よ」

私達は病気の治療のみではなく、病者の不安や悩みなどを取り除き、つねに患者さんのための真の医療を考えております。

また、病者の痛みに共感することができる「医の心」を持つ医師と「看護の心」を持つ看護師の養成を目指しております。

病院の理念

「病気を診ずして 病人を診よ」の教えに基づき、質の高い医療を実践し、医療人を育成することにより、社会に貢献し、患者さんや家族から信頼される病院をめざす。

病院の基本方針

1. 患者さんや家族が満足する良質な医療を実践する。
2. 先進医療の開発・導入など、日々、医療水準の向上に努める。
3. 優れた技能を身につけ、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成する。
4. 地域社会と連携し、きめ細かな医療サービスを提供する。
5. 全職員が誇りをもって働ける職場づくりを実践する。

日本ではじめて「FISH!」哲学を看護の場に導入

イキイキと働ける環境づくり

職場の活性化に効果があるといわれる「FISH!」哲学を日本ではじめて看護の場に導入しました。

「FISH!」の原理

- ① 楽しく遊び心をもつ
- ② 人を喜ばせる
- ③ 注意を向ける
- ④ 態度を選ぶ

この4つの原理を各自が自分の方法で実践することで、自分の仕事の価値を見出せたり、思いやりのある前向きな姿勢となります。「FISH!」哲学の導入により組織の活性化を目指しています。



緊張して現場に入る新人さんへ
プリセプターからの
ウェルカムボード



教育研修も自ら選び
自由な発想で楽しく学べる
環境へ!

それぞれの実践は自由!! 「FISH!」エピソード

これら自由な発想でそれぞれの「FISH!」を実践することにより働きやすい環境が整い、新人の定着率が高まりました。
また、看護師職務満足度も向上し、より患者サービスが図れるようになりました。



互いに不足を指摘しがちなコミュニケーションから、互いに良い点を伝えるコミュニケーションへ

患者さんが安らげる病院の環境づくり
～癒しの音楽やアロマ～



FISH! とは、アメリカで構築された経営哲学です。

「仕事を愛するようになると、限りなく幸せになり、意義のある充実した毎日を過ごすことができる…ここには責任を重視する革新的な職場環境をつくり上げるための秘策が示されている。こうした環境では、遊び心と思いやりのある前向きな姿勢が、より多くのエネルギーと情熱、生産性と創造性を生み出す」-FISH! (早川書房) 冒頭より一部抜粋-

Let's FISH!

Good レポート賞



看護実践報告会



ハロウィン



慈恵ならユニフォームだって自由にチョイス!!



看護方式・勤務体制

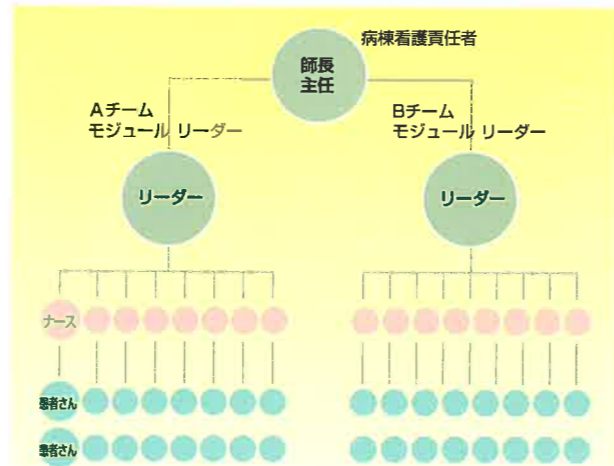
時代に柔軟に即応した、 斬新な体制づくりを確立

平均在院日数の減少や24時間濃厚な医療が求められている中で、慈恵では看護方式はモジュール型継続受け持ち方式を、勤務体制は二交替制を実施しています。看護体制・勤務体制は、医療環境がめまぐるしく変化する時代に柔軟に即応する必要があります。モジュール型継続受け持ち方式を基本にしつつも、各部署の特殊性に応じて一部機能別看護を取り入れるなど、チーム力・互いのサポート力を活かし、ケアの質的向上を図っています。



モジュール型継続受け持ち方式

1つの看護単位を2～3のモジュール（チーム）に分け、各チーム内で看護師と患者さんが1対1で向き合い、患者さんの入院から退院までの継続した看護に責任を持つ。そしてその受け持ち看護師をチーム全体がバックアップする。これがモジュール型継続受け持ち方式です。



二交替制：夜勤は18:30～

当院の二交替制は、特定機能病院として24時間濃厚な医療に対応でき、患者に必要なケアを必要な時に効率良く、提供する事で、ケアの質の向上を目指すための勤務体制である。

＜目的＞

1. 患者に質の高いケアを提供する
2. 患者ケアにおけるチーム力を高める
3. 看護師のライフサイクルを充実させ、ゆとりを持って看護が出来る

●勤務体制（モデル勤務時間帯例） （二交替制）



卒後教育体制

卒後教育プログラム

全人的な看護を提供する プロとしての土台づくり

看護部ではF・ナイチンゲールの「看護とは生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えること」の実践を目標に、個人の意欲や段階に応じ、4病院共通の教育体制を整えています。研修を通じて、「感じる心」「考える力」「人と関わる力」を育み、全人的な看護を提供できるナースを育てます。



■卒後教育の骨子

	認定・専門看護師	ジェネラリスト	エデュケーションナース	看護管理者	集合教育プログラム	
実践レベル					師長研修 主任研修 看護管理者研修	
レベル4					職場の変化・変革を創造して主体的に取り組むことができる ＊社会の動向から病院の変化・変革について視野拡大	リーダーシップⅡ研修
レベル3					各部署において、理論的根拠に基づいた効果的な指導・支援が出来る人材育成 ＊各部署の新人看護師・プリセプターへの教育的・精神的支援を行う	エデュケーションナース研修 （教育担当者）
レベル2					問題解決思考を学び、目標達成に向け主体的に行動できる ＊自己を客観視し、他者とのコンセンサスを得ることの重要性を学ぶ	リーダーシップⅠ研修
レベル1	臨床で学ぶことの意義を理解し、より良い看護実践者を育成する ＊看護実践者としての判断力を高め、自己の指導観を膨らませる	プリセプター研修				
	3年目	三重の関心を注ぎ、個別的な看護実践能力を高める ＊的の当たった看護実践力、立場の変換能力を鍛え、対象と関わる力を高める	実践力強化Ⅱ研修			
	2年目	対象をまるごと見つけ、看護実践能力を養う ＊看護するための人間・病気の見つけ方を深める	実践力強化Ⅰ研修			
	1年目	専門職業人としての自覚を持ち、これまで学んだ知識・技術を活用して、チームメンバーの支援を受けながら看護実践力を身につけ、スタッフナースとして自立できる	1年目看護師教育研修			

1年目看護師教育研修

チームの支援を受けながら スタッフナースとしての 自立をめざす

※ 自立とは「自分ひとりで何かもできるようになること」ではなく、「今、自分にできることできないことを見極め、必要な支援を求めることができる」力を意味します。

入職から最初の1年間は基礎教育からの継続のオリエンテーション期間として位置付けています。「先輩ナースの指導を受けながら、スタッフナースとして自立すること」を目標とし、短い期間での詰め込みをせずに、しっかりと看護観や知識・技術を身につけます。

育成支援は「1年目看護師育成計画表」に基づいて、「現場教育」と「集合教育」の2本柱で行われます。

1年目看護師育成計画表

育成計画は1年間で大きく4つの段階に分け、各段階での目標を“看護実践力”“組織人としての行動”“管理”“教育・研究”の分野ごとに細かく設定しています。

各段階での到達目標はあくまで目安であり、各人の個性にあわせたプログラムづくりがなされています。

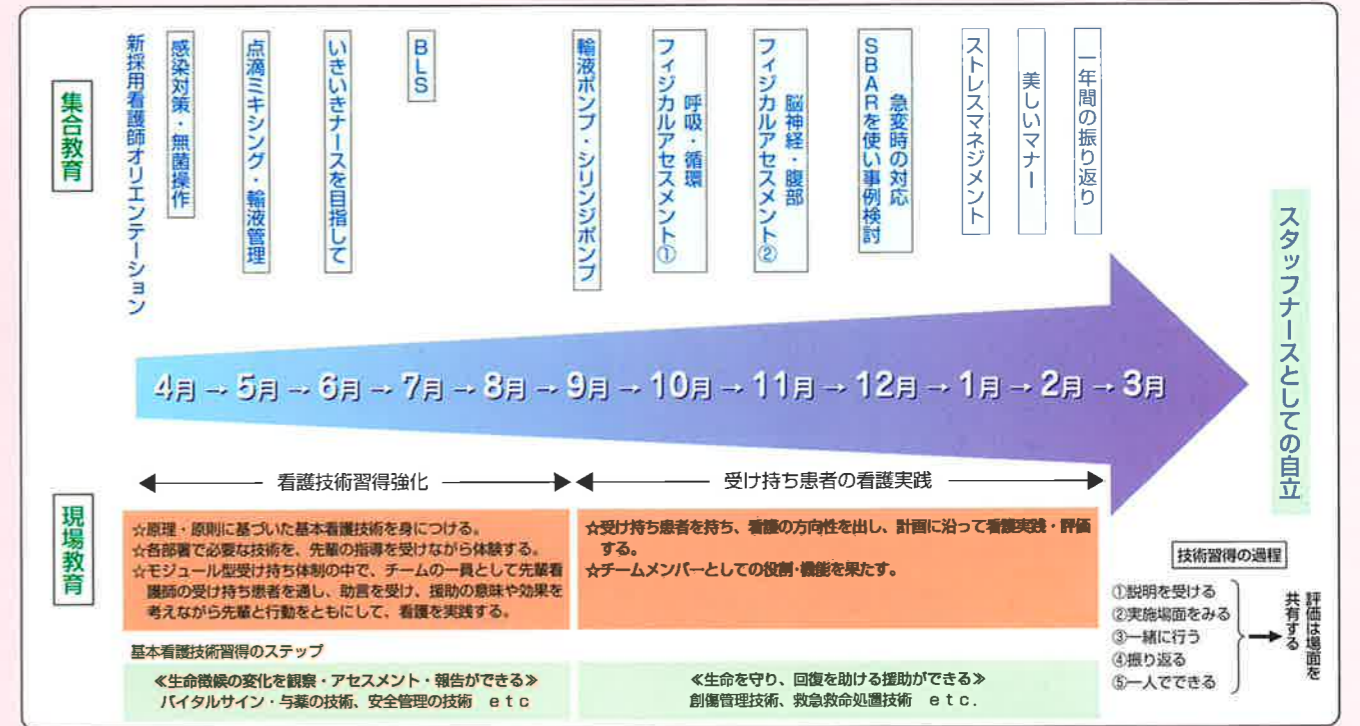
	3カ月	6カ月	9カ月	12カ月
看護実践力	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けながら、患者の気持ち配慮して、安全安楽な日常生活上の援助ができる 助言を受けながら、担当患者への援助の意図・効果を考えて、評価できる 助言を受けながら、担当患者への援助内容を記録できる 	<ul style="list-style-type: none"> 助言を受けながら、担当患者のその日の問題を明確にし、それに沿った看護を実践できる 助言を受けながら、担当患者の看護過程に沿った看護記録が書ける 助言を受けながら、担当患者の状態に合わせて、安全・安楽な援助を工夫できる 	<ul style="list-style-type: none"> 受け持ち患者の病態生理・治療方針がわかり、意図的に情報収集し、指導を受けながら看護計画を立案・実施・評価できる 受け持ち患者の看護過程に沿った、看護記録が書ける 受け持ち患者の看護方針をチームメンバーに伝達し、ケアの継続をアピールできる 看護基準やアセスメントツールを活用して受け持ち患者の状態をアセスメントし、ケア計画・実施に活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> 受け持ち患者の全体像・その時々を把握し、助言を受けながら必要な看護を判断・実施・評価し、次の看護に活かすことができる 受け持ち患者の個別性をふまえた、患者・家族への生活指導ができる
基本看護技術	<ul style="list-style-type: none"> バイタルサインの測定・評価・報告 BG測定・評価・報告 感染予防技術 安全確保技術 与薬の技術（内服管理・輸液準備） 日常生活援助技術 	<ul style="list-style-type: none"> 症状・生体機能管理技術 呼吸・循環を基盤とする技術 与薬の技術（輸液管理・インスリン） 安全管理の技術 コミュニケーション技術 	<ul style="list-style-type: none"> 創傷管理技術 与薬の技術（輸血・抗凝固剤・麻薬・解毒剤・劇薬） 救急救命処置技術（気道確保・救急カート） 	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命処置技術（排管・呼吸器準備と管理） 死後の処置 1年を振り返り、不足している技術を強化する
組織人としての行動	<ul style="list-style-type: none"> 病院・看護部の理念、目標を知る 職場内のルールを知る 患者のプライバシーを守る 清潔感のある身だしなみを整える 挨拶ができる 報告・連絡・相談ができる 困ったときに、プリセプターに相談できる 自分の健康管理ができる 	<ul style="list-style-type: none"> チームメンバーと情報を共有し、指示受け・報告をしながら行動し、夜勤の一人立ちができる カンファレンスやミーティングで、自分の意見を自ら言うことができる 適切な言葉づかいで、同僚や医師とコミュニケーションをとることができる 困ったときに、プリセプターや先輩の協力を、自ら求めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> まわりの状況に目を向けられ、他のスタッフと協力し合うことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 病院・職場のルールを守り、看護チームの一員として、責任ある行動がとれる
管理	<ul style="list-style-type: none"> 自分の勤務場所の特殊性を知る 院内の構造やシステム、他部門との連携ルール 各種伝票の取り扱いを知る（SPD・ME・薬剤部など） パソコン操作ができる スタンダードプリコーションを知り、活用できる 患者の安全に気を配り、危険防止のための行動ができる（誤認防止・転倒転落防止・病棟の整理整頓・後片づけ） 	<ul style="list-style-type: none"> 院内ルール・システムを活用できる（搬送・外来システムなど） 事故発生時はリーダーナースに報告し、適切な対応ができる 針事故時の対応を知り、感染予防対応と報告ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 夜勤の院内管理体制を知り、活用できる（夜勤部長への報告・ME・薬剤物の連絡・受け取り） 備品・設備の不備や不足に気づき、責任者に報告できる 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の安全に気を配り、積極的に事故防止に努めることができる
教育・研究	<ul style="list-style-type: none"> 院内教育プログラム・研修別オリエンテーション 技術訓練指導に意欲的に参加し、専門知識・技術を修得していくことができる 	<ul style="list-style-type: none"> スキルアップ研修等に主体的に参加することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 看護研究発表の場やリスクシナリオ等に関心を持って参加することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 各部署の勉強会で、割り当てられた課題について学習し、発表することができる 2年目に向けて、自己の看護実践力を評価し、課題を明らかにすることができる 受け持ち患者の看護実践評価を、レポートする

※ 3カ月毎の定期的評価を行い、自己の学習課題を明確にして、取り組む



新人教育年間プログラム

※ 集合教育内容は時期・内容を変更する可能性があります。



現場教育

「現場教育」ではプリセプター制度を基本とし、エデュケーションナースを中心にチーム全体で新人を丁寧に導いていきます。

入職から6カ月間は“看護技術習得の強化”を目標とし、先輩看護師の担当患者さんと一緒に受け持ち、アドバイスを受けながら共に看護を行います。そして9月頃より自分の受け持ち患者さんを担当し、看護計画に沿って具体的な看護実践を行います。

新人一人ひとりには「教育研修ハンドブック」が用意され、育成計画の各段階の区切りごとにプリセプターや、エデュケーションナースとともに評価をし、振り返りながら次のステップへと進みます。



集合教育

「集合教育」は1年間を通して計画されています。研修は就任初日から「新採用看護師オリエンテーション」（2日間）から始まります。看護技術の習得においては各専門分野のスタッフにより研修が計画・実施され、原理原則・根拠をふまえた、安全・安楽な基本看護技術の習得をめざします。その他メンタルフォローや救急蘇生研修など幅の広い研修内容が計画されています。



キャリア開発支援

幅広いキャリア開発支援プログラムにより確実な成長を図る

実践レベル別研修に加えて、スキルアップ講座を中心とした幅広いキャリア開発支援プログラムが設けられています。

看護師一人ひとりが「キャリア開発ファイル」を持ち、「臨床実践能力レベル」(キャリアラダー)で自分のレベルを確認しながら、各個人の成長レベルや目指す専門分野に応じて自主的に講座を選択、受講して実践能力を高めていきます。その他院内では医師やコメディカルと協働した勉強会がオープン形式で多数開催されており、自由に参加することができます。



状況設定をしたシミュレーション教育 (シミュレーションセンター)



採血の技術練習



BLSセミナー

■キャリア開発支援プログラム【平成23年度一部抜粋】

項目	4月	5月	6月	7月	11月	12月	1月	2月	3月
看護技術 (フィジカルアセスメント)					フィジカルアセスメント (開)	フィジカルアセスメント オープン講座2回 静脈注射研修	フィジカルアセスメント オープン講座2回	フィジカルアセスメント オープン講座2回	
BLS			月2回開催			月1回開催			
ACLS		高野病院 (東京慈恵会センター)		本院			第三病院		
医療機器安全使用のための講習会「安全講習会」		月1回開催	月2回開催	月1回開催	1回開催	月2回開催	月1回開催	月2回開催	月2回開催
《皮膚排泄ケア》				褥瘡ケア		下痢を生じたときの排泄ケア			
《クリティカルケア》 集中ケア 救急看護		フィジカルアセスメント (系統別)		急変対応能力 (症状別)			(手術と共催) 早期回復過程 (服用症候群、DVT)		
(がん看護セミナー) がん性疼痛看護 乳がん看護 がん化学療法看護				これだけは押さえて! がん看護の基礎 (基本の知識・技術)	から学ぶ がんケアの実践 がん患者の事例				
《感染管理》		カテーテル感染対策 (血管内カテーテル、尿管カテーテル)				アウトブレイクへの対応			耐性菌対策
《糖尿病看護》	インスリン療法と低血糖の対応		糖尿病患者に必要な疾患とアプローチの知識				(皮膚排泄ケアと共催) 新生児におけるスキンケア		
《新生児看護》		(感染と共催) 新生児における感染予防 (新生児の免疫の特徴、感染予防)							
リハビリテーション		移動・移送 (1年目看護師必修)	移動・移送 (1年目看護師必修)	移動・移送 (1年目看護師必修)					
患者支援・医療連携		介護保険について	医療費制度について	在宅療養患者の事例検討	について		在宅中心診療未読患者の事例検討	地域連携について	
医療安全	チーム医療構築ワークショップ	転倒・転落防止セミナー・コンパチメント症候群勉強会	感染対策セミナー	合同リスクマネジメントシンポジウム	リスクマネジメントセミナー		チーム医療構築ワークショップ	合同リスクマネジメントシンポジウム	

働きながら学べる看護大学院

「東京慈恵会医科大学大学院 医学研究科 看護学専攻修士課程」を開校

本学では、平成21年4月に看護のキャリアがある働く看護職者を対象とした看護大学院を開校しました。ここでは、良き医療人のひとりとして看護学の質の向上に貢献できる人材の育成を目的としています。

本学の4つの附属病院の看護師も在籍し、幅広い知識と高い技能を日々の患者ケアやスタッフ指導に生かしています。修士取得後は、専門看護師、看護教員、研究者としてさらなる活躍が期待されています。

認定・専門看護師

高レベルの専門技術・知識を有し 病院全体を舞台に活躍

段階ごとの卒後教育を受けた後は、認定・専門看護師、ジェネラリスト、エデュケーションナースや看護管理者などの道を自分で選択し、さらに看護の質を高めていくことになります。

認定・専門看護師の資格を取得した看護師は、専門分野における患者さんのニーズに応える看護の実践をはじめ、スキルアップ講座の開催など他の看護スタッフへの指導や、緩和ケアチーム・感染制御チーム・褥瘡対策チーム・栄養サポートチームなど他職種と共に病院全体を舞台に活躍しています。



認定・専門看護師の役割

- **実践** 特定の看護分野において、個人・家族または集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する。
- **指導** 特定の看護分野において、看護実践を通して他の看護職者に対し指導を行う。
- **相談** 特定の看護分野において、看護職者に対しコンサルテーションを行う。
- **教育** 専門看護分野において、看護職者に対しケアを向上させるため教育的役割を果たす。
- **研究** 専門看護分野において、専門知識・技術の向上、開発をはかるために実践の場における研究活動を行う。

認定看護師の分野

1. 救急看護
 2. 皮膚・排泄ケア
 3. 集中ケア
 4. がん性疼痛看護
 5. がん化学療法看護
 6. 感染管理
 7. 糖尿病看護
 8. 新生児集中ケア
 9. 手術看護
 10. 緩和ケア
 11. 乳がん看護
 12. 小児救急看護
- など

専門看護師の分野

1. 小児看護
2. 精神看護
3. 家族支援看護

慈恵独自のバックアップ体制

認定看護師などの資格認定コースを目指す際には慈恵独自の国内留学制度により、日常の業務から離れて就学し、留学手当の支給を受けて専門分野の習得に専念できる環境が整っています。

毎年附属4病院からこの国内留学制度の利用を認められた者が就学しており、今までに本制度にて認定看護師の資格を取得したスタッフは計50名、それぞれの専門性を生かして活躍しています。

また、看護研究や外部の研修会参加など、看護教育を支援する基金があります。



附属病院(本院)

最先端の医療技術と最良のサービスで、常に最高水準の医療を提供する。

附属病院(本院)は特定機能病院として先進医療の実践とともに、患者さん本位の効率的な医療体制を構築し、全国より来院される患者さんの満足度の向上に努めています。

年間の手術件数は14,000件を超え、日本でトップクラスの実績を誇り社会に貢献しています。また、母子医療体制の整備を目的に「総合母子健康医療センター」を開設し、診療科の枠を越えたグループ診療を行っています。



日本で初めての大学内総合母子健康医療センター

概要

〒105-8471 東京都港区西新橋 3-19-18
電話 03-3433-1111 (大代表)

開設: 明治15年(1882年)

病床数: 1,075床

外来患者数: 3,011名(1日平均)

入院患者数: 889名(1日平均)

診療科目数: 36科目

診療科目: 総合診療部、救急部、内科(8診療部)、精神神経科、小児科、皮膚科、外科(6診療部)、整形外科、脳神経外科、形成外科、心臓外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、歯科、ペインクリニック、放射線治療部、内視鏡部、スポーツ・ウエルネスクリニック、脳血管内治療部、画像診断部、感染制御部

診療部門: 皮膚レーザー治療室、総合母子健康医療センター、麻酔部、造血細胞治療センター、ウィメンズクリニック、外来化学療法室

教職員数: 2,456名



最先端の手術室



ICU



助産師外来

葛飾医療センター

地域医療の拠点として、患者参画型医療を提供する。

2012年1月より、地域に根ざした病院として役割を担ってきた青戸病院が「慈恵医大葛飾医療センター」としてリニューアルオープンしました。新病院は、「地域と共生し発展・創造し続ける病院」をコンセプトに、地域密着型の大学病院として、プライマリケア、総合診療、二次救急医療の充実を図り、先進医療を兼ね備えた質の高い医療を提供します。また、看護部主導による入退院をコーディネートするPFM(パーシレント・フロー・マネジメント)システムを導入しています。



在宅医療相談



外来での術前指導の様子



患者カンファレンス



外来エントランス



概要

〒125-8506 東京都葛飾区青戸 6-41-2
電話 03-3603-2111 (大代表)

開設: 昭和21年(1946年)

病床数: 365床

外来患者数: 1,081名(1日平均)

入院患者数: 317名(1日平均)

診療科目数: 24科目

診療科目: 総合内科、内科(8診療部)、精神神経科、小児科、皮膚科、外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、画像診断部、麻酔部、内視鏡部

診療部門: 救急部

教職員数: 675名



新病院小児科外来

第三病院

大学附属病院として先進医療の提供と、地域に根ざした継続性のある医療の提供。

第三病院は一般病棟に加え、リハビリテーション病棟、結核病棟、精神科領域である森田療法に特化した森田療法センターなど特色ある病棟を有するとともに、ハイテクナビゲーションシステムを完備した手術棟を有し、大学病院として先進医療を提供しています。また、地域に密着した医療機関として患者さんへの支援機能を集約した「総合医療支援センター」では医師・看護師・栄養士・医療ソーシャルワーカー・医療連携スタッフが患者さんの受診から退院後の療養生活までをサポートしています。



スタッフ紹介ボード(病棟)



健康情報室



チームカンファレンス



概要

〒201-8601 東京都柏江市和泉本町4-11-1
 電話 03-3480-1151 (大代表)
 開設：昭和25年(1950年)
 病床数：581床
 外来患者数：1,390名(1日平均)
 入院患者数：460名(1日平均)
 診療科目数：25科目
 診療科目：総合診療部、内科(8診療部)、精神神経科、小児科、皮膚科、外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、歯科(歯科・口腔外科)、放射線部、内視鏡部、麻酔部
 診療部門：救急部
 教職員数：995名



研修風景

柏病院

救急・がん・地域連携を軸として、高度な医療と信頼の看護を提供する。

千葉県東葛北部地域に位置する柏病院は急性期医療の充実を目指して、2008年からICU・CCU・手術室の増室を行い、2012年度からは救命救急センターを開設、地域の中核病院として重要な役割を担っています。また、地域がん診療連携拠点病院として多職種で構成する緩和ケアチーム、外来化学療法室、がん相談支援センターなどが設置され、院内のみならず地域のがん医療の向上に努めています。

柏病院のある千葉県柏市は東京へのアクセスも非常に便利なところです。



医療チームカンファレンス



1年目集合研修(いきいきナースを目指して)



シミュレーションによる教育



概要

〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1
 電話 04-7164-1111 (大代表)
 開設：昭和62年(1987年)
 病床数：624床
 外来患者数：1,479名(1日平均)
 入院患者数：531名(1日平均)
 診療科目数：26科目
 診療科目：総合診療部、救急部、内科(8診療部)、精神神経科、小児科、皮膚科、外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、心臓外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔部、放射線部、内視鏡部
 教職員数：1,047名



緩和ケアチーム

私にとって

慈恵が一番!

多彩な研修内容だから すぐ現場で生かれます!

私は総合母子医療センターの小児科病棟で働いています。病棟にはPICUが4床あり、高度な技術と知識を必要としますが、日々経験を重ねていく事で身につける事が出来るので、とてもやりがいを感じています。1年目にはプリセプターが見守ってくれているので安心です。また、先輩方も丁寧に指導してくれ、2年目以降もキャリアに合わせた研修制度が整っており、自分を成長させる機会に恵まれています。



附属病院 病棟勤務

職場内には、フィッシュ精神が根付いているので、スタッフ同士協力しながら楽しく働いています。患者さんやご家族の笑顔に支えられながら毎日充実した日々を過ごしています。

今になって気づく充実サポート

本院には、たくさんの人たちが働いています。年齢も出身や人生の目標も色々。一生看護師で働く人もいれば、結婚して辞める人もいます。

でもその中で、看護に対する考え方にはある共通点があります。それは、「病気を診ずして病人を診よ」の建学の精神にあるように、常に患者さんのことを一番に考えているところです。色々な性格や考え方の人がいる中で、ここだけはブレない、とても素敵なことだと思えます。また、本院には、自分の考えをしっかりと持っている人、自分自身のキャリアデザインを明確にもっている人が多いように感じます。これは、卒後教育の一環であるキャリア開発支援が充実しているからではないでしょうか。



附属病院 ICU勤務

ICUには男性看護師が私だけですが、入職してから現在に至るまで大きく困ることなく目標を持って仕事に臨んでいます。周りの方々に見えないところでサポートしていただいていることを日々実感し、感謝しています。このような充実したサポートの中で、一緒に成長していきたいですね。

慈恵での毎日は喜びとやりがい にあふれています!

慈恵で働き、日々新しい学びを得ることができています。それは病人を診る看護の目と心を養えるからです。プリセプターはもちろん、病棟内のスタッフ同士の協力がとてもよく雰囲気も良いため、安心して働いています。



葛飾医療センター 病棟勤務

また、時期に合わせた院内研修では患者さんの捉え方や看護者としての関わり方を振り返りながら自己を高められ、大きな感動を得ています。地域密着型病院であり患者さんの信頼を大事にする中で、患者さんやご家族からあたたかな言葉をいただき、さらに頑張ろうという気持ちになれ、慈恵の看護師として喜びとやりがいを感じています。

みなさんとの新病院づくりを 楽しみにしています。

大学病院としての役割を果たしながら、地域に密着したアットホームな葛飾医療センターで、自分の力を高めたいと思い就職し7年が経ちました。患者さんの笑顔から力をいただいたり、お互いの目標に向かって刺激し合える仲間を支えられ、看護の力・やりがいを実感しながら、勤務しています。



葛飾医療センター 病棟勤務

病院では「FISH!」の輪が広がり、笑顔の多い環境のなか、それぞれの職種が日々、専門家としてのスキルアップに励んでいます。平成24年1月に新病院としてリニューアルした葛飾医療センターに皆さんの新しい力が加わるのを楽しみにしています。

先輩や後輩から多くの刺激を 受けながら、一緒に学んでいます!

私は泌尿器科・婦人科病棟で働いていますが、患者さんと接していると様々な看護を求められている事を実感します。慈恵は学年に応じた教育や研修が充実している環境が整っていて、学んだことがすぐに現場に生かれます。私は今年、プリセプターの役割を担い後輩に指導する事の難しさや看護の楽しさを感じていました。プリセプター研修を受講し、指導するというのは、後輩と同じ目標に立つことや立場の変換をすることで後輩の気持ちや行動に近づけると学びました。学ぶ精神を忘れずに充実して働くことができます。



第三病院 病棟勤務

褥瘡対策チームの専従看護師 として責任とやりがいのある 毎日を過ごしています。

私は外科病棟へ入職後、ストーマを造設する患者さんと関わりながら、より専門的な知識・技術でストーマ保有者を支えていきたいと考え、皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取得しました。現在は、褥瘡対策チームの専従看護師として活動しています。



第三病院 外来勤務

第三病院は高齢者が多く、皮膚が脆弱で褥瘡や創傷をもつ人が少なくないので、他職種からなる褥瘡対策チームや現場のスタッフと共同し、創傷治癒を促進するケアを行っています。また、ストーマを造設する患者さんには術前から関わり、退院後もストーマ外来での継続看護を行っています。病棟スタッフと共に患者さんと向き合い、看護のプロセスを歩むことで責任とやりがいを感じながら毎日充実感を得ています。

充実したサポート体制の中で 明るく笑顔で看護しています。

私の働く救急室は平成24年度より「救命救急センター」となり、さまざまな年齢・病態の患者さんに対し、迅速な対応が求められています。救急の現場では命を守ることが最優先とされていますが、突然の事態に患者さんやご家族は動揺している場合が多くあり、1分1秒を争う現場の中でも「病気を診ずして病人を診よ」という慈恵の精神のもと心のケアも大切にしよう努力しています。技術や知識が求められる救急という現場は大変なこともありますが、先輩方の手厚いサポートや研修体制が充実した環境の下で働くことができ、明るく笑顔で看護できることに喜びを感じています。



柏病院 救命救急センター勤務

やりたい看護を明確にできる 環境が魅力です。

柏病院の魅力は、卒後教育の充実だけでなく、個人の能力を引き出し、その分野で力が発揮できるようサポートする上司・先輩・同僚がいることです。医療現場において大きな影響を与えてくれる各分野の認定看護師や、理学療法・糖尿病・リンパマッサージ等を習得した職員による勉強会の開催も多く、学んだことを臨床で実践する環境が整い、常に新しいものが生まれる活気ある現場となっています。



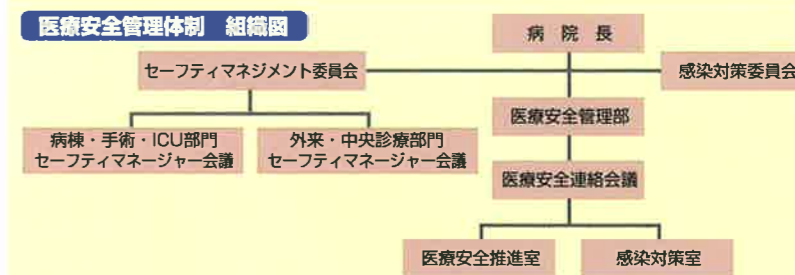
柏病院 病棟勤務

自分でやりたい看護を明確に出来ずにいた時、外来化学療法室の開設に関わる機会をもらいました。地域がん診療連携拠点病院の看護師としてがん治療の専門知識を深めるだけでなく、外来通院をしながら治療を受けている患者さんと関わり、地域の特性にあった患者教育や在宅療養への支援も重要な看護だと実感しました。今では、そういった患者さんや家族のニーズにあった医療が提供できるように変化・進化し続ける看護師でありたいと思っています。

より安全な医療の提供のために

東京慈恵会医科大学附属4病院では、各病院に「セーフティマネジメント委員会」と「医療安全推進室」を組織し、安全管理体制の充実と教職員一人ひとりの安全意識の向上に努め、安全な医療を提供しています。また、院内感染対策にも組織横断的に対応しています。

これら医療安全・感染対策の推進に関わる主な活動についてご紹介します。



安心・安全な医療の提供

問題事例から学ぶ

問題事例が発生した場合、その事例の大きさに関わらず、医療問題のすべてをオンラインで医療安全推進室に報告する体制を整えています。報告はセーフティマネジメント委員会等で分析され、結果を現場にフィードバックし、再発防止につなげています。

チーム医療の推進

米国、国防総省とAHRQ(医療品質研究調査機構)が協力し開発された、医療の質・患者安全向上のためのチームワークシステム「Team STEPPS(チームステップス)」の手法を取り入れ、患者さんを頂点として全ての職員がチームを意識して医療を実践することで医療の安全と質の向上を推進しています。



安全管理体制の確認

医療安全に関わるルールの実践状況の確認を目的に、チーフセーフティマネージャー、フロアセーフティマネージャー、医療安全推進室が中心となり「医療安全院内ラウンド」を定期的に行っています。また、4病院の安全対策意識の向上等を目的に「4病院相互ラウンド」を行っています。更に、私立大学病院間の相互ラウンドを実践し、安全管理のレベルアップと関係大学間の連携体制を充実させています。



4病院相互ラウンド

感染対策の推進

感染対策においては迅速な対応が求められるため、感染症事例の報告があった時点で速やかにICT(感染対策室)が現場へ出向き、対策の指導を行い感染拡大の防止に努めています。また、耐性菌検出例、血液培養陽性例、広域スペクトラム抗菌薬使用例を対象にICTラウンドを実施し、現場とディスカッションを行い、必要対策・治療が行えるように介入しています。



ICTラウンドの風景

安全意識の向上に向けて

教育・研修

●4病院合同のシンポジウム、セミナー

- ～平成23年度実施テーマ～
- ・「Risk managementからSafety managementへ～新たな挑戦～」
- ・「医療安全のためのチームワーク改善法「Team STEPPS」」
- ・「医療安全における患者とのパートナーシップ」
- ・「褥瘡セミナー」



シンポジウム風景

●チーム医療構築ワークショップ

大学全体の取り組みとして、全ての教職員と医学生、看護学生等を対象に、多職種間コミュニケーションを通じて医療安全の質の向上、患者安全の方策についてグループ討議する「チーム医療構築ワークショップ」を各附属病院にて継続的に開催しています。

●更なるレベルアップに向けて

- 専門性や職種別のテーマに沿った教育活動を行い、レベルアップに努めています。
- ～平成23年度実施テーマ～
- ・セーフティマネジメント基礎研修会
- ・Team STEPPS エssenシャルコース
- ・感染対策ベーシックコース
- ・感染対策セミナー ～結核～
- ・ガフキーカンファレンス
- ・転倒・転落予防の勉強会
- ・MRI安全講習会
- ・医薬品セミナー
- ・院内暴力対策研修会
- ・医療機器安全使用のための講習会
- ・慈恵BLSコース・ICLSコース
- ・初期臨床研修医オリエンテーション
- ・研修医医療安全カンファレンス
- ・新採用看護師オリエンテーション
- ・委託派遣職員医療安全研修

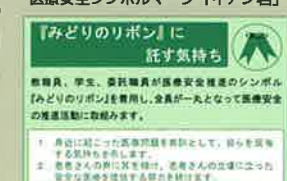


医療安全推進週間

全学を挙げての医療安全推進の取り組みとして、医療安全推進週間を設けています。平成23年度は、11月1日から14日の2週間、当院の医療安全シンボル「みどりのリボン」の着用、4病院合同のセーフティマネジメントシンポジウムをはじめとする教育・研修活動を実施し、医療安全の意識向上に努めました。



医療安全シンボルマーク「イアン君」



福利厚生

仕事のあとは、心身ともにリフレッシュ。

精一杯に仕事をやり遂げたあとは、心身ともに思い切りリフレッシュ！このバランス感覚が大切です。慈恵大学は職員の皆さんのために、いろいろな行事や福利厚生制度を用意しています。

夏の納涼大会や秋の文化祭などの年間行事の他に、スポーツや文化活動などサークル活動も行っており、多くの職員と楽しみながら普段と違うスタッフ同士の親睦を深めることができます。また、保養所では、慈恵大学独自に35施設と契約しており、利用の際には大学から補助金が還付されます。その他に本学が加入する日本私立学校振興・共済事業団には、国内外で利用可能なリゾートホテルなどの施設が数百を数え、また東京ディズニーリゾートやフィットネスクラブの利用料金の割引など充実した制度があります。

健康的なレジャーを楽しみながら、職業人として、またひとまわり成長を遂げる。これこそ慈恵流のライフスタイルと言えるかもしれません。



納涼大会 (8月)



野球部



(保養所) 宮崎・シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート



(保養所) 伊豆修善寺・嵯峨沢館
山梨・ホテルマウント富士



(保養所) 函館大沼プリンスホテル



(保養所)

年間行事

夏／納涼大会 秋／文化作品展示会
冬／病院忘年会、ボウリング大会 その他

サークル

- 野球 ●サッカー
- バレーボール ●茶道
- 華道 ●俳画 など

厚生施設

●慈恵大学厚生施設

- ◇契約施設 (全国35施設)
- ニューオータニ札幌
- 函館大沼プリンスホテル
- 裏磐梯高原ホテル
- スパリゾートハワイアンズ
- りんどう湖ロイヤルホテル
- ホテル水上館
- ホテルグリーンプラザ箱根
- 大磯プリンスホテル
- マホロバマインズ三浦
- ヒルトン小田原リゾート&スパ
- ホテルマウント富士
- 軽井沢プリンスホテル
- NASPA ニューオータニ
- 下田プリンスホテル
- 和倉温泉加賀屋
- ウェスティン都ホテル京都
- ホテル大阪ベイツタワー 他

●日本私立学校振興・共済事業団契約の各種施設

- ◇私学事業団直営宿泊施設
- 箱根・軽井沢・金沢・京都・福岡など各方面に21施設
- ◇海外保養施設
- ワイキキ・ビーチ・タワー等ハワイ(オアフ島、カウアイ島、ハワイ島)に3箇所
- ◇フィットネスクラブ
- コナミスポーツクラブ・セントラルスポーツ・NAS・ティップネスなど
- ◇東京ディズニーリゾート・マジックキングダムクラブ

教職員支援プログラム

～聞いてもらいたいことありませんか～

今までの学生生活とは大きく変わる社会人生活。仕事や人間関係など、新たな生活の中で様々な悩み事が生まれるかもしれません。慈恵大学では、そのような悩み事をまわりに知られずに、電話やインターネット、面談などで気軽に相談できる外部EAP(従業員支援プログラム)提供会社と契約し、職員のメンタル面のサポート体制を整えています。



看護師寮

快適空間で、自分の時間をゆったりと過ごす

寮には院内寮と院外寮があり、それぞれにオートロックの玄関など、万全のセキュリティ・システムを導入しています。

音響とも落ち着いた環境にあり、住みやすさは抜群で、また銀座や渋谷などの繁華街へのアクセスもしやすいためショッピングなどにも便利です。室内はワンルームのマンション形式で、すべて個室になっておりバス・トイレ・洗濯機設備などを完備しています。

ゆとりある時間と空間の中で、自分なりにゆったりと過ごす。快適なプライベートタイムを満喫し、また充分な休息を取り、明日への英気を養ってください。

院内寮 (愛宕第1寮)



通勤時間を気にせず、勤務日のランチを自室でゆったりとすることもできます。



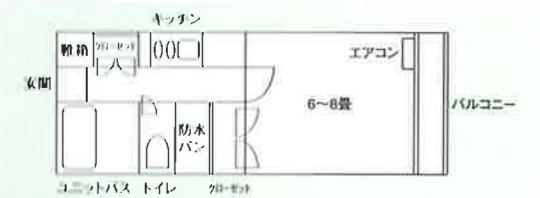
院外寮 (コスモ亀有V寮)

寮入口のオートロックでセキュリティは万全。駅から近いのも魅力的です。



〈寮 間取り図〉

各種看護師居室の基本的な間取り図になります。全寮概ねこの間取りに準じていますが、各居室により若干の相違があります。



■看護師寮の一覧

本院	愛宕第1寮	本院内
	碑文谷寮	目黒区
	入谷寮	台東区
葛飾	第二堤桜寮	葛飾区
	コスモ亀有V寮	葛飾区
第三	エトワール狛江寮	狛江市
	シャルマン荒井寮	狛江市
柏	カーサ・デ・コルサ寮	柏病院内
	カーサ・デ・コルサ新柏寮	柏市

※通勤経路・付帯設備一覧等、詳細は募集要項をご覧ください。

第三病院



- 京王線——国領駅より徒歩10分
- 京王線——調布駅南口よりバス10分
- 小田急線——狛江駅よりバス5分



神代植物公園



下北沢

葛飾医療センター



- 京成電鉄——青砥駅より徒歩10分
- 京成電鉄——青砥駅よりバス6分
- JR常磐線——亀有駅よりバス10分



紫又帝釈天

柏病院



- JR常磐線——北柏駅より徒歩10分
- 北柏駅よりバス5分



半賀沼公園

附属病院（本院）



- 都営三田線——御成門駅より徒歩3分
- 日比谷線——神谷町駅より徒歩7分
- 銀座線——虎ノ門駅より徒歩10分
- JR山手線——新橋駅より徒歩12分



東京タワー



お台場

慈恵医大 晴海トリトンクリニック

- 東京都中央区晴海1-8-8
晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーW3階
- 都営大江戸線——晴どき駅より徒歩5分
 - 有楽町線・都営大江戸線——月島駅より徒歩14分

大学・病院の沿革

130年の歴史

1世紀を超えて、常に患者さん中心の先進医療を模索しつづけた医学・医療を追求する者の「心の道なり」がここにある。



留学していた頃の創設者 高木兼寛

- 1881(明治14)年 1月 京橋区鎗屋町11番地東京医学会にて成医会発会
会長：高木兼寛
- 1881(明治14)年 5月 東京医学会の一室を借り、医師試験を志す医学生数10名に医学を講じ、成医会講習所と称した
- 1882(明治15)年 8月 高木兼寛の主唱により救療のための病院として賛同者の協力により有志共立東京病院を開く
- 1884(明治17)年10月 米人ミス・リードを招へいし看護婦の教育にあたらせた
- 1885(明治18)年 4月 有志共立東京病院にわが国初の看護婦教育所を付設した
- 1887(明治20)年 4月 皇后陛下より「慈恵」の名を賜り有志共立東京病院は東京慈恵医院と改称
- 1903(明治36)年 6月 専門学校令により私立東京慈恵医院医学専門学校となる(11月開校式挙行)
- 1907(明治40)年 7月 社団法人東京慈恵会設立、東京慈恵医院を東京慈恵会医院と改称、同医院に附属医学専門学校及び附属看護婦教育所を置くこととなる
- 1921(大正10)年10月 財団法人東京慈恵会医科大学許可される
学長：金杉英五郎
- 1922(大正11)年 2月 高木善寛、東京病院を本学に提供、本学附属病院となる
院長：高木善寛
- 1925(大正14)年 7月 附属東京病院看護婦講習所が許可される
- 1944(昭和19)年 4月 東京慈恵会医科大学附属医学専門部開校(昭27.3閉校)
- 1946(昭和21)年 7月 中川堤療養所を総合病院として東京慈恵会医科大学附属東京病院分院青砥病院と改称した 院長：古関義之
- 1950(昭和25)年11月 第三病院開院 院長：加藤義夫
- 1951(昭和26)年 3月 財団法人東京慈恵会医科大学は、学校法人慈恵大学に変更、同法人が東京慈恵会医科大学を経営
- 1952(昭和27)年 4月 新制、東京慈恵会医科大学となる
- 1982(昭和57)年 4月 生涯教育センター設置
- 1985(昭和60)年11月 附属病院健康医学センター(スポーツ外来部)開設
- 1987(昭和62)年 4月 附属柏病院開院 院長：大島 襄
- 1992(平成4)年 4月 医学部看護学科開設
- 1994(平成6)年 2月 附属病院が特定機能病院として承認
- 2000(平成12)年 5月 附属病院中央棟開設
- 2001(平成13)年11月 附属病院総合母子健康医療センター(母子センター)開設
- 2002(平成14)年 4月 慈恵医大晴海トリトンクリニック開設
- 2002(平成14)年 4月 東京慈恵会医科大学(西新橋校)「大学1号館」開設
- 2003(平成15)年 8月 附属第三病院新手術棟開設
- 2003(平成15)年11月 附属病院脳血管内治療センター開設
- 2006(平成18)年 4月 附属病院に患者支援・医療連携センター設置
- 2007(平成19)年 5月 附属第三病院に森田療法センター開設
- 2009(平成21)年 4月 医学研究科に看護学専攻修士課程を開設
- 2012(平成24)年 1月 附属青戸病院が、「慈恵医大葛飾医療センター」として開院



看護婦教育所発祥の地の碑(東京都港区の文化財)



慈恵とは…

人を慈しむ心と心を忘れず、人間愛に根ざす医療の確立。それは、本学の建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」によって端的に表現されています。この思いは、医師や看護師をはじめとするすべてのスタッフに、広く浸透していることは言うまでもありません。まず患者さんのことを第一義に考える医療の実践に向けて、慈恵スタッフは邁進しています。